

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/005713

International filing date: 28 March 2005 (28.03.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-097059
Filing date: 29 March 2004 (29.03.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 12 May 2005 (12.05.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 4 年 3 月 2 9 日

出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 4 - 0 9 7 0 5 9

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号

The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

J P 2 0 0 4 - 0 9 7 0 5 9

出 願 人
Applicant(s): 山 田 千 代 恵

2 0 0 5 年 4 月 2 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願
【整理番号】 P3395
【提出日】 平成16年 3月29日
【あて先】 特許庁長官 今井 康夫 殿
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都港区高輪4－20－10 高輪井門202
 【氏名】 山田 菊夫
【特許出願人】
 【識別番号】 395007060
 【氏名又は名称】 山田 千代恵
【代理人】
 【識別番号】 100077573
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 細井 勇
 【電話番号】 03-5565-1221
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 011877
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0304407

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

清掃用品を保持するための取り付け部材と、長尺なスライド部を有するスライド部材と、手持ち可能に形成された柄部材とからなる保持部材であって、前記取り付け部材は清掃用品を取り付けるための保持部を備えスライド部材と一体に形成され、前記柄部材は内部が中空状に形成され前記スライド部を収容可能な鞘部と該鞘部よりも高い位置に接続されている把持部とを備え、スライド部材を取り付け部材に対し高さが突出せずに前後にスライド可能に形成し全長が水平方向前後に伸縮するように形成されていることを特徴とする手持式清掃具用保持部材。

【請求項 2】

取り付け部材がスライド部材から取り外し可能に形成されている請求項 1 記載の手持式清掃具用保持部材。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 手持式清掃具用保持部材

【技術分野】

【0001】

本発明は、モップ等からなるの清掃用品が交換可能或いは使い捨て可能に取り付けられている手持式清掃具に用いられ、清掃用品を保持する部分と握持用の柄の部分とが一体に形成された保持部材に関する。

【背景技術】

【0002】

タンス等の家具、パソコンや照明器具等の電気製品、建物内部の壁、敷居、鴨居等についた埃を拭き取って取り除くための手軽な手持式清掃具として、柄、ヘッド部および清掃布とからなり、柄が把持部と支持部とからなり、ヘッド部が中央の本体部とその周辺の可撓性部とからなり、前記本体部に柄が挿入可能な嵌挿部が形成され、該嵌挿部に柄の支持部が嵌挿されてなるハンドワイパーが公知である（例えば特許文献1参照）。

【0003】

また、ハンドワイパー用保持部材として、装着部、握り部、及びこれらを繋ぐ腕部とが一体に形成されている部材が公知である（例えば特許文献2参照）。前記装着部には二股に分かれて先部側に延びる対を成す挿入部が設けられ、前記腕部が該装着部の基部から上方へ斜めに立ち上がるように延び、該腕部の上端に前記握り部が連続して形成されている。そして握り部は装着部の下面から離れた高い位置にあり、また装着部とほぼ平行に形成されている。この保持部材の装着部に拭き取りシートを装着することで、手持式清掃具が構成される。

【0004】

【特許文献1】 特開2000-83883号公報（請求項1、図1、図2、図3）

【特許文献2】 特開2002-165742号公報（0018、0025、図1、図2）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

特許文献1及び特許文献2に記載の手持式清掃具は、いずれも柄の長さが手で握ることができる程度の長さに形成されている。そのため、手の届かない遠くにある部分の清掃を手軽に行うことができないため、使い勝手が悪いという欠点があった。

【0006】

そこで本発明者は先に、柄の部分伸びるように形成した手持式清掃具の保持部材を提案している（特願2002-297845）。図28(a)に示すように、この保持部材101はグリップ部102と枝部103とが結合部104を介して折り曲げ可能に取り付けられていると共に、同図(b)に示すように、グリップ部102の内部に空隙を設け、該空隙に芯材105を収容しグリップ部102が芯材105に対し長手方向にスライド可能に嵌合している。

【0007】

この保持部材101は図28(b)に示すように、グリップ部102に対し芯材105を長手方向前方にスライドさせることで、柄が長く伸びて枝部103との間隔が長くなる。その結果、枝部103に取り付けられる拭き取り部とグリップ部102との距離が長くなり、手の届かなかった遠くの場所を容易に拭き取ることができる。

【0008】

しかしながら、この保持部材を用いた手持式清掃具は、柄が長く伸びるものの、隙間のような狭いところを清掃する場合、結合部104が段差となって厚みを持っているため、枝部103に取り付けた拭き取り部は隙間に入れた際に結合部104が邪魔になって、隙間の奥の方まで拭き取り部が届かないという問題があった。

【0009】

本発明は上記課題を解決するためになされたもので、狭い隙間を清掃する際に奥の方まで十分な清掃能力を発揮できる手持式清掃具用保持部材を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

即ち本発明は、

(1) 清掃用品を保持するための取り付け部材と、長尺なスライド部を有するスライド部材と、手持ち可能に形成された柄部材とからなる保持部材であって、前記取り付け部材は清掃用品を取り付けるための保持部を備えスライド部材と一体に形成され、前記柄部材は内部が中空状に形成され前記スライド部を収容可能な鞘部と該鞘部よりも高い位置に接続されている把持部とを備え、スライド部材を取り付け部材に対し高さが突出せずに前後にスライド可能に形成し全長が水平方向前後に伸縮するように形成されていることを特徴とする手持式清掃具用保持部材、

(2) 取り付け部材がスライド部材から取り外し可能に形成されている上記(1)記載の手持式清掃具用保持部材、

を要旨とするものである。

【発明の効果】

【0011】

本発明の手持式清掃具用保持部材は、清掃用品を保持するための取り付け部材と、長尺なスライド部を有するスライド部材と、手持ち可能に形成された柄部材とからなる保持部材であって、前記取り付け部材は清掃用品を取り付けるための保持部を備えスライド部材と一体に形成され、スライド部材を取り付け部材に対し高さが突出せずに前後にスライド可能に形成し取り付け部材が水平方向前後に伸縮するように形成されていることにより、取り付け部材に清掃用具を取り付けて手持式清掃具を構成した場合、狭い隙間を清掃する際に奥の方まで清掃用品が届くことになり、十分な清掃能力を発揮できる。

【0012】

また、柄部材は内部が中空状に形成され前記スライド部を収容可能な鞘部と該鞘部よりも高い位置に接続されている把持部とを備えていることにより、床面などの高さの低い場所の隙間であっても取っ手が除間にならずに、清掃を行うことができる。

【0013】

また取り付け部材がスライド部材から取り外し可能に形成した場合には、長尺な部材を取り外して全体としてコンパクトに収納可能であり、また各種形状に形成した取り付け部材を準備すれば、各種清掃用品の形状に対応することが可能である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

図1(a)、(b)は手持式清掃具用保持部材(以下、単に保持部材と言うこともある)の一実施例を示す斜視図であり、図2は図1の分解斜視図である。図1及び図2に示すように本発明保持部材1は、清掃用品を保持するための取り付け部材2と、スライド部材3と、手持ち可能に形成された柄部材4とから構成される。そしてスライド部材3は、取り付け部材2に対して高さが突出しないように形成され、スライド部材3と取り付け部材2とは一体化され、水平方向前後に移動可能に形成されている。

【0015】

取り付け部材2は、清掃用品を取り付けて保持するための清掃用品保持部21(以下、単に保持部ということもある)と、該取り付け部材2をスライド部材3の端部に接続するための挿入部22とを備える。スライド部材3は、長尺平板状部材からなるスライド部31と前方端部に設けられた前記挿入部22が嵌合する受け部32とからなる。なお本発明において「前方」は、保持部材1の長手方向における取り付け部材2側を指し、「後方」とは柄部材4側を指す。また本願の図面において、取り付け部材の前方側を「正面」、後方側を「背面」とした。

【0016】

柄部材4は、内部が中空状に形成され前記スライド部材3のスライド部31を収容可能な空間を有する鞘部41と、鞘部41から接続されていると共に該鞘部41よりも高い位置に設けられていて、手で握り持つことが可能な把持部42を備えている。鞘部41の前方端部にはスラ

イド部材3のスライド部31を差し込むための開口部45が開口している(図3参照)。

【0017】

取り付け部材2は、後端の挿入部22をスライド部材3の受け部32に嵌合させ、スライド部材3と一体化している。そして、スライド部材3はスライド部31の後端34が、柄部材4の鞆部41の差し込み口43から挿入されて鞆部41の内部に收容されている。

【0018】

スライド部材3と取り付け部材2とは、取り外しできないように接合されていてもよいが、取り付け部材2がスライド部材3から取り外し可能に形成されていると、取り付け部材2を取り外して保持部材1の長さを短くすることができるために、保管、流通等の際に便利である。また形状の異なる取り付け部材を用意しておいて、取り付け部材2を交換可能に形成することができる。この場合、清掃用品に応じて最適な形状の取り付け部材を選択して使用することもでき、各種の形状の清掃用品に対応することができる。

【0019】

図1(a)に示すように、通常の状態では、保持部材1はスライド部材3のスライド部31が鞆部41の内部に収納された状態で受け部32のみが柄部材4の前方に存在し、取り付け部材2が柄部材4と一体に形成されている。図1(a)に示す状態に対し、スライド部材31を前方にスライドさせると、図1(b)に示すように、スライド部材3の前方に取り付けられた取り付け部材2が前方に移す。このときスライド部材3は高さを変化せず前方に延びるように形成されている。

【0020】

保持部材を組み立てるには、図2に示すように、柄部材4の開口部45からスライド部材3の後端34を強く押し込む。スライド部材2の後端34の横幅はストッパー35の分だけ開口部45の横幅よりも少し大きく形成されているが、強く押し込むとプラスチック等により形成されている場合、その弾性により開口部45の幅が広がり、鞆部41の内部の空間にスライド部材は押し込まれる。保持部材は通常、スライド部31がすべて鞆部41内に入り込んで長さが短い状態で取り扱われる。そして必要に応じ、取り付け部材2の挿入部22をスライド部材3の受け部32に挿入して取り付ける。取り付け部材2がスライド部材3から取り外し可能であれば、流通過程や、商品販売時、家庭等で収納する際に、取り付け部材2を取り外しておいて取り付けることができる。

【0021】

保持部材1を構成する各部材の材料としては、プラスチック、金属、木材などを用いることができるが、軽量、安価な点でプラスチックが好ましい。プラスチックを材料として用いる場合、ポリエチレン系樹脂やポリプロピレン系樹脂等のポリオレフィン系樹脂が、成形が容易である点から好ましい。

【0022】

清掃用品を取り付けるための取り付け部材2は、図14に示すように二股状枝部材からなる保持部21と取り付け部材2をスライド部材3に一体化するための挿入部22とから成る。保持部21の断面形状は、図20に示すように略円筒を半分に切った形状に形成されている。なお図中25は保持部底面側に長手方向に設けられている補強用リブである。

【0023】

上記保持部材2は各々の枝部材の上側周囲に、長手方向の所定間隔の4個所に、周囲が外方に膨出する凸部27が設けられている。この凸部27は、取り付け部材の平面図、底面図及び側面図から明らかなように(図14～図16参照)、保持部21の前方から後方に向けて半径が大きくなるように膨出する突起として形成されている。この凸部27は、保持部21の枝部材の先端から清掃用品5の取り付け部等に挿入する場合は比較的スムーズに挿入できるが、抜く場合には、凸部27が引っかかることになり、抜け防止に効果的である。

【0024】

図14に示す保持部材2は、保持部21と挿入部22との境界は、後方側が少し厚みが熱く形成された鍔部12が設けられている。鍔部12は、図16に示すように保持部材の上下に設けられている。そして、図21に示すように、取り付け部材2の挿入部22をスライド部材3の受け

部32の嵌合凹溝38に嵌合した場合に、鏝部12の後端部と受部32の前端部とが面位置となるように形成されている。

【0025】

図16～図19に示すように、保持部材2の挿入部22の幅方向中程部に、半球状に下方に凸に形成された係止用の突起24が設けられている。突起24は159に示すように、その周囲をコ字状に切り欠いて弾性を持たせた状態に形成されている。図21に示すように、挿入部22をスライド部材3の受け部32に押し込むと、突起24は溝の中を通り受け部32に設けた係止穴37に嵌まり込んだ状態で固定される。その結果、通常の清掃作業等の力が加わった程度では、取り付け部材2はスライド部材3から外れることはないが、少し強い力で引っ張れば、突起24が弾性変形し係止穴37から外れるので、取り付け部材2をスライド部材3から取り外すことができる。

【0026】

スライド部材3は図8に示すように、長尺に形成されたスライド部31の前方および後方の端部付近に、上方に凸に形成された係止ボタン33が設けられている。係止ボタン33は図9に示すように、その周囲をコ字状に切り欠いた状態に形成し、図11に示すように下方に空隙Vを設け、上方から該係止ボタン33を下方に押し込み可能とするとともに、手を離れたときに係止ボタン33が上方に元に戻るよう弾性部36として形成されている。

【0027】

またスライド部31の後端34の両側面には、図8および図9に示すように、スライド部の側面より外方に飛び出す突起状のストッパー35、35が設けられている。このストッパー35は、スライド部材3を柄部材4の鞘部31から前方にスライドさせた際に、スライド部材3が鞘部3から抜けて外れるのを防止するためのものである。またスライド部3の底面側はリブ39を設けて補強し、肉抜きしている(図10、図12参照)。

【0028】

スライド部材3の受け部32は、図9に示すようにスライド部よりも横幅が広く形成され、内部が取り付け部材2の挿入部22が入る嵌合凹溝38として形成されている。そして、この受け部32の底面側には、スライド部材の挿入部22に設けた突起が嵌るように貫通穴37が設けられている。図13に示すように、受け部32の嵌合凹溝38の下面側には前後方向に走る凸条11が設けられている。この凸部11には取り付け部材2の挿入部下面側に設けた凹溝23(図15、図18参照)が嵌りこむ。

【0029】

図1に示す態様の保持部材において柄部材4は、鞘部41の前方から後上方に隆起する連結部43を介して把持部4が設けられ、鞘部41の後端に接合するように降下する形状に形成されているが、該連結部43を設けずに鞘部41の後方のみから把持部4に立ち上がるように連結して構成してもよい。

【0030】

柄部材4は図3に示すように、鞘部41及び把持部42及び連結部43の内部が中空に形成されている。鞘部41の内部の中空空間Wには、スライド部がスライドして収納可能な大きさに形成されている。また図4に示すように、スライド部31の係止ボタンが嵌合する貫通穴44が設けられ、鞘部41の前方端部にスライド部材3を挿入するための開口部45が設けられている。開口部45の横幅は、スライド部31のストッパー35よりも小さく形成される。

【0031】

また図7に示すように、前記貫通穴44は鞘部41の上面側が大きくなるように形成され、嵌合した係止ボタンを指で押しやすくなっている。また図5に示すように柄部材4の鞘部41の底面には、3箇所切欠部が設けられている。柄部材4は図6に示すように、把持部42は鞘部41よりも高い位置にあり、鞘部41との間に手を入れる空間47を有する。

【0032】

柄部材4の把持部42の下面側形状は、図2、図3に示す如く、手で握り易いように前後方向に波形の凹凸が設けられている。また特に図示しないが、把持部42の上面及び/又は側面を、下面同様に手で握り易いように指の形状に沿った凹凸を設けて、角の部分面取り

した形状に形成してもよい。

【0033】

取り付け部材2は図1に示す態様では、長手方向と交差する方向の断面が半円形状になるように形成したが、図22及び図23に示すように、長手方向と交差する方向の断面が円形になるように形成してもよい。この場合、抜け防止用の突起27は円周全域に設けられる。

【0034】

取り付け部材2は、二股枝状以外の形状に形成してもよい。例えば図25～図27に示す取り付け部材は、保持部21がミット状の清掃用品を保持するための外骨と外骨を繋ぐ骨格状に形成したものである。この場合、裏面側に周縁を縁取るようにリブ28が設けられている(図26参照)。また図27に示すように前側の保持部21に対し後側の挿入部22の高さが少し盛り上がるように形成されている。

【0035】

図1(a)に示す保持部材1は、スライド部材3のスライド部31全部が鞘部41に収納された状態であり、前方の係止ボタン33aが貫通穴44に嵌合している。この係止ボタン33aの貫通穴44に対する嵌合は、清掃の際に本発明保持部材を水平方向に動かした際に外れない程度であればよい。前記係止ボタン33aを下方に押し込みながらスライド部材3の受け部32を指で摘み前方に引き出すと、スライド部材3と取り付け部材2が一体に前方に移動する。スライド部材3は、ストッパー35が鞘部41の開口部45にぶつかるまで引き出すことができる。スライド部材3を最大に引き出した状態で、ストッパー35が開口部45にぶつかり停止するから、スライド部材3が完全に外れてしまうことはない。そしてこの状態では図1(b)に示すように、鞘部41の貫通穴44には後方の係止ボタン33bが嵌合して、清掃の際にスライド部材3が取り付け部材2と一体になって、最大長さの位置に保持されるから、手の届かないところの清掃作業を確実に行うことができる。スライド部材3を短縮するには、同様に、係止ボタン33を押して嵌合を外してスライド部材3を鞘部41内に押し込んで収納する。

【0036】

取り付け部材2に装着する清掃用品は、取り付け部材2に装着及び脱着が可能であって、塵や埃等を拭き取ることが可能な、モップ、シート等が用いられる。図24に示すように、清掃用品5は、上側に装着部51が設けられ下側に拭き取り部52が設けられている。同図に示すように、装着部52は2個所の開口部が設けられた袋状に形成されており、保持部材1の取り付け部材2を該装着部52の開口部から挿入することで、清掃用品5が保持部材に保持され、この状態で手持式清掃具6として利用することができる。清掃用品が汚れた場合には、装着部52から脱着して、きれいな清掃用品と交換することで良好な拭き取り効果が得られる。

【0037】

清掃用品5としては、多数の繊維をシート様に束ねたシート様繊維束と、一側辺に短冊状部を有するシートとにより構成されたもの、不織布シートから形成されたもの等が挙げられる。前記シート様繊維束を構成する繊維としては、例えば綿、毛等の天然繊維、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート、ナイロン、ポリアクリル等の合成繊維、芯鞘型繊維、海島型繊維、サイドバイサイド型繊維等の複合繊維等が用いられる。また前記短冊状部を有するシートとしては、紙、合成樹脂シート、不織布等が挙げられる。前記不織布としては、スパンレース不織布、スパンボンド不織布、サーマルボンド不織布、エアスルー不織布、ポイントボンド不織布等を用いることができる。不織布を構成する繊維としては、天然繊維、合成繊維、複合繊維等が挙げられる。不織布としては、坪量20～100g/m²程度のものが好ましい。

【図面の簡単な説明】

【0038】

【図1】本発明の手持式清掃具用保持部材の斜視図であり、(a)は全体を縮めた状態を示し、(b)は全体を伸ばした状態を示す。

【図2】図1の保持部材の分解斜視図である。

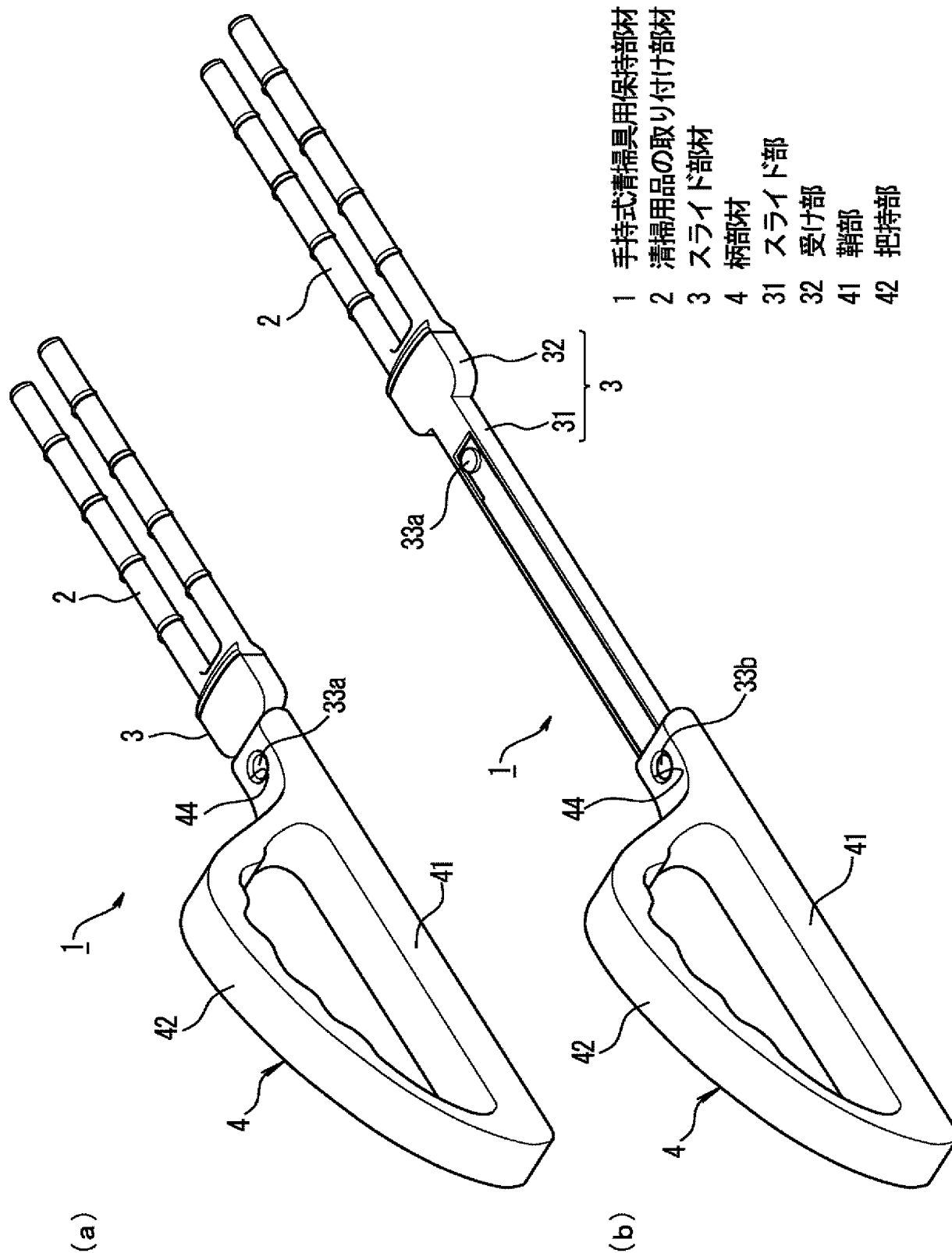
【図3】図2の柄部材のA-A線縦断面図である。

- 【図 4】 図2の柄部材の平面図である。
- 【図 5】 図2の柄部材の底面図である。
- 【図 6】 図2の柄部材のB-B線縦断面図である。
- 【図 7】 図2の柄部材のC-C線縦断面図である。
- 【図 8】 図2のスライド部材の側面図である。
- 【図 9】 図2のスライド部材の平面図である。
- 【図 10】 図2のスライド部材の底面図である。
- 【図 11】 図2のスライド部材のD-D線縦断面図である。
- 【図 12】 図2のスライド部材のE-E線縦断面図である。
- 【図 13】 図2のスライド部材のF-F線縦断面図である。
- 【図 14】 図2の取り付け部材の平面図である。
- 【図 15】 図2の取り付け部材の底面図である。
- 【図 16】 図2の取り付け部材の側面図である。
- 【図 17】 図2の取り付け部材のG-G線縦断面図である。
- 【図 18】 図2の取り付け部材の背面図である。
- 【図 19】 図2の取り付け部材のH-H線縦断面図である。
- 【図 20】 図2の取り付け部材のI-I線縦断面図である。
- 【図 21】 図1の保持部材の取り付け部材の挿入部とスライド部材の受け部を嵌合した状態を示す断面図である。
- 【図 22】 取り付け部材の他の態様の一部を示す側面図である。
- 【図 23】 取り付け部材の他の態様の断面図である。
- 【図 24】 図1の保持部材の取り付け部材に清掃用品を装着して成る手持式清掃具の外観斜視図である。
- 【図 25】 取り付け部材のその他の態様を示す平面図である。
- 【図 26】 図25の取り付け部材の底面図である。
- 【図 27】 図25の取り付け部材の側面図である。
- 【図 28】 (a)は従来の手持式清掃具保持部材の斜視図であり、(b)は柄を伸ばした状態を示す斜視図である。

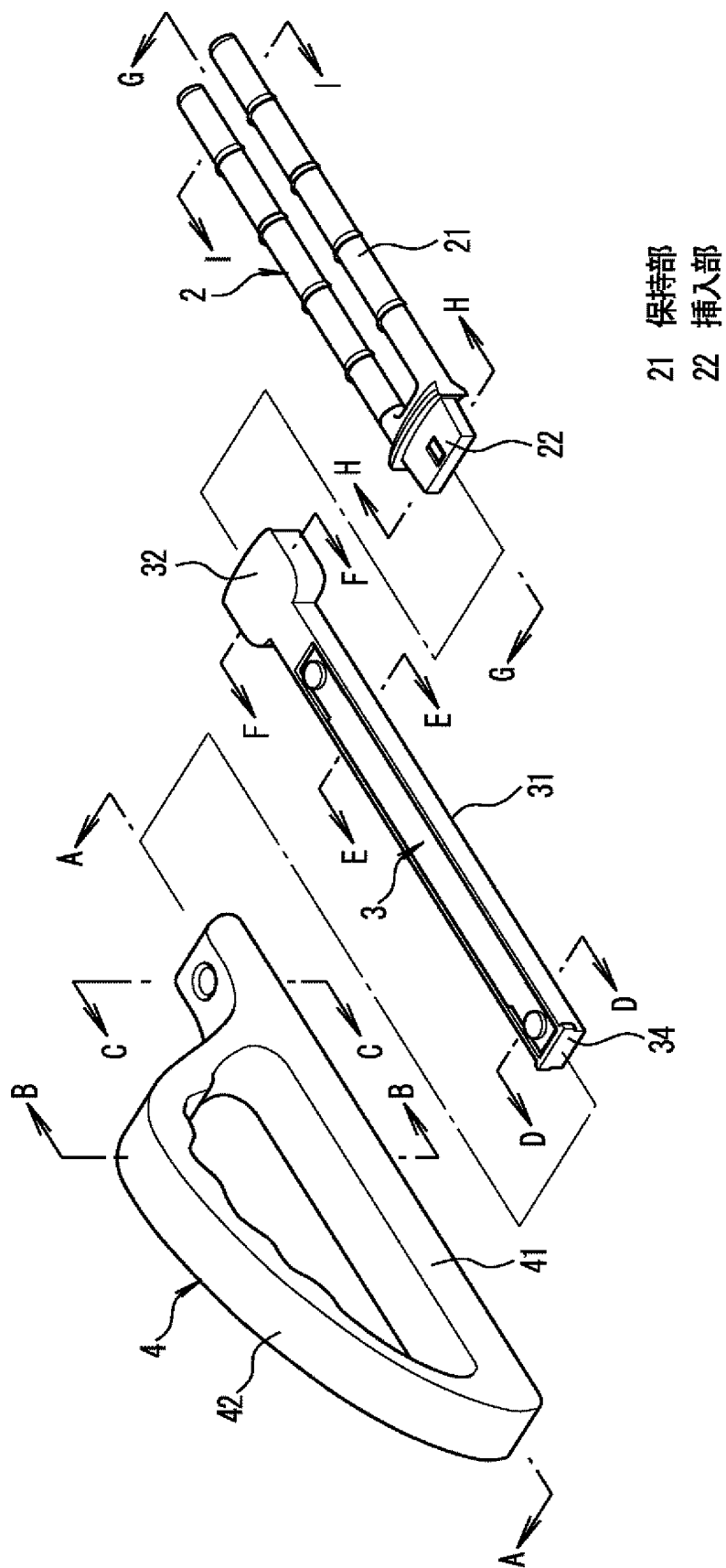
【符号の説明】

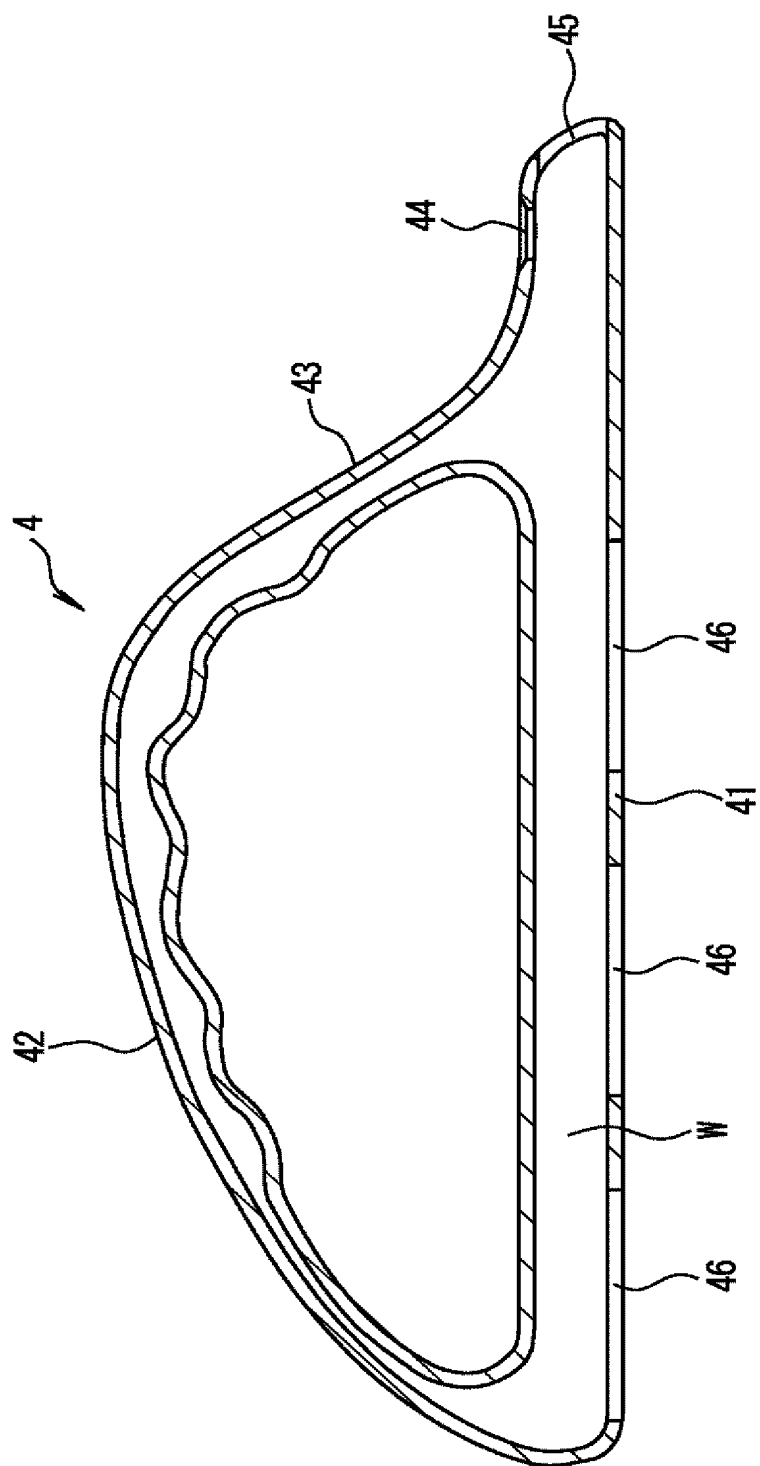
【0039】

- 1 手持式清掃具用保持部材
- 2 清掃用品の取り付け部材
- 3 スライド部材
- 4 柄部材
- 5 清掃用品
- 6 手持式清掃具
- 21 保持部
- 22 挿入部
- 31 スライド部
- 32 受け部
- 41 鞘部
- 42 把持部

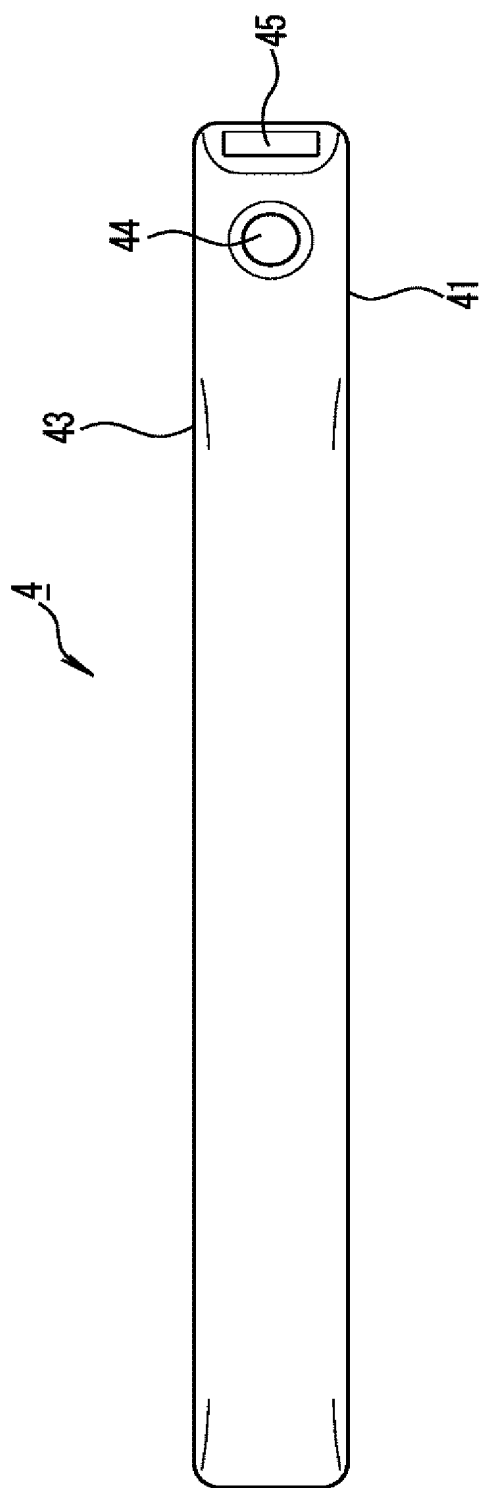


【図 2】

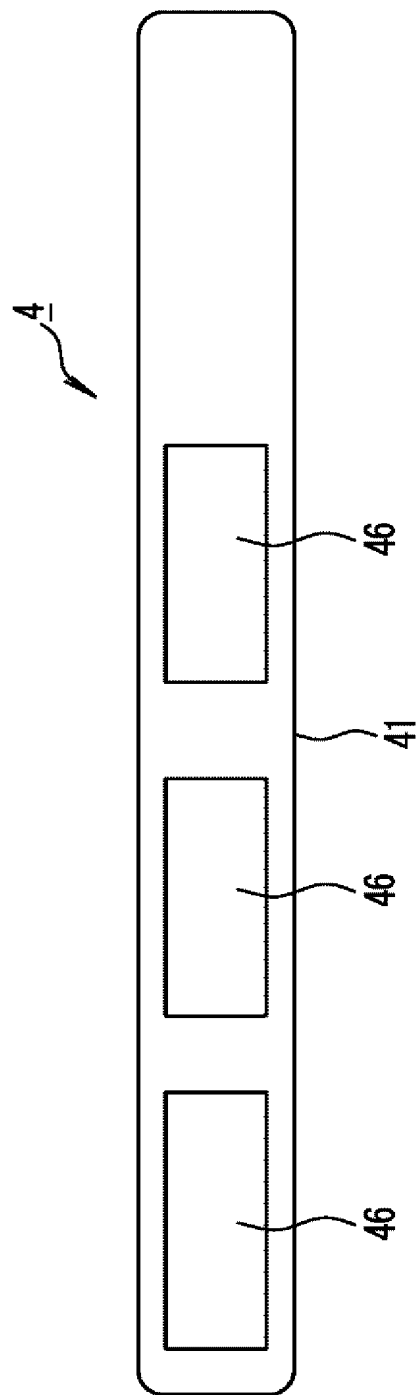




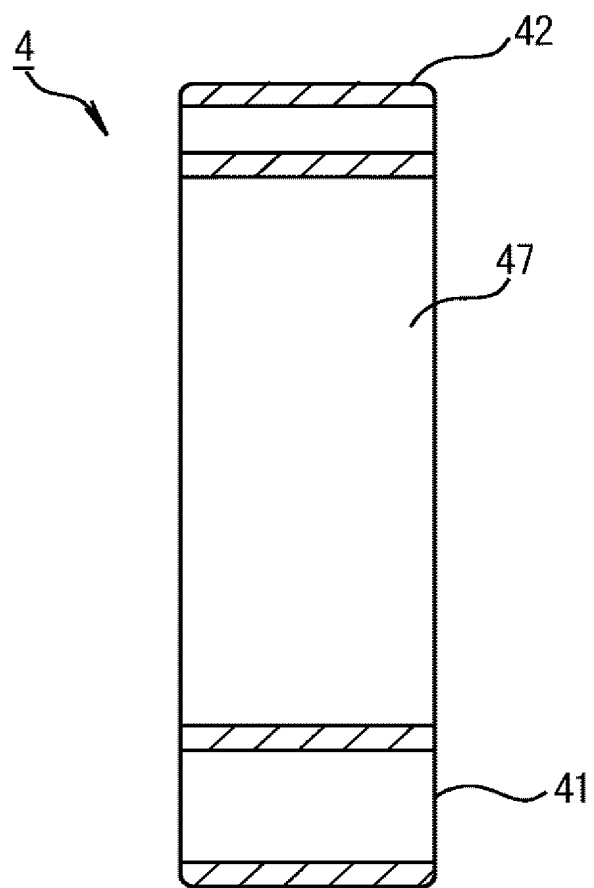
【 図 4 】



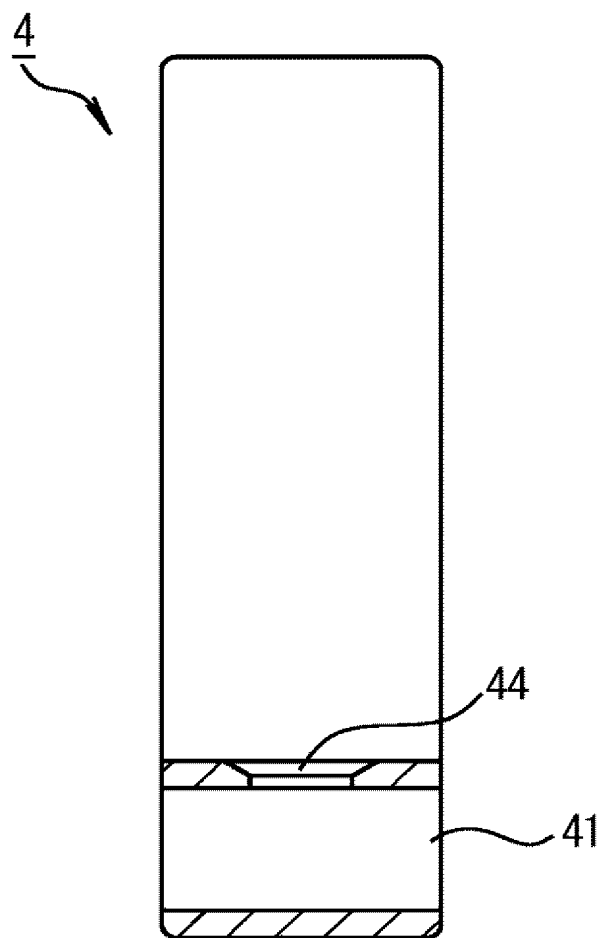
【 図 5 】

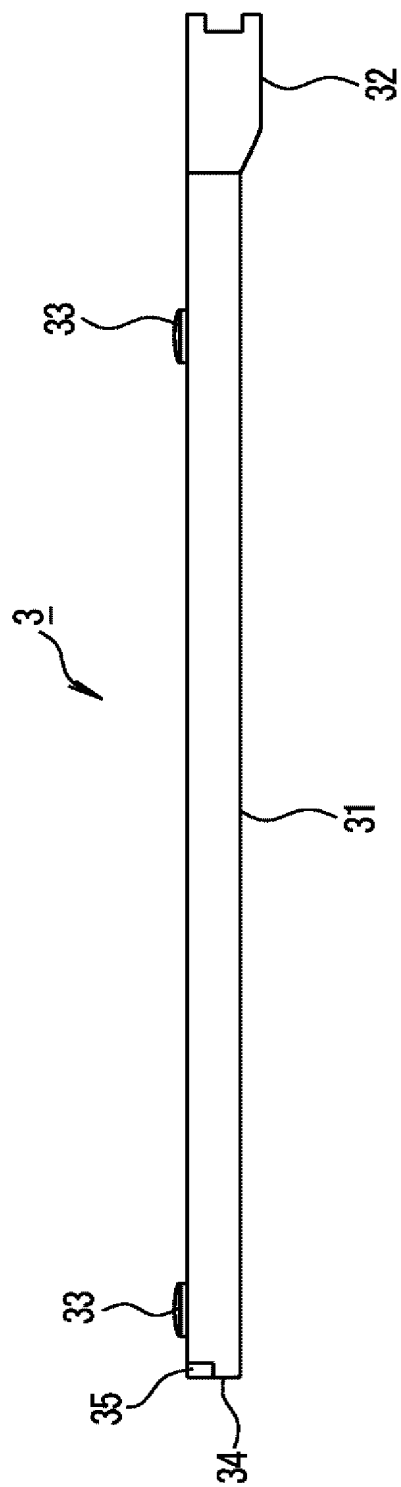


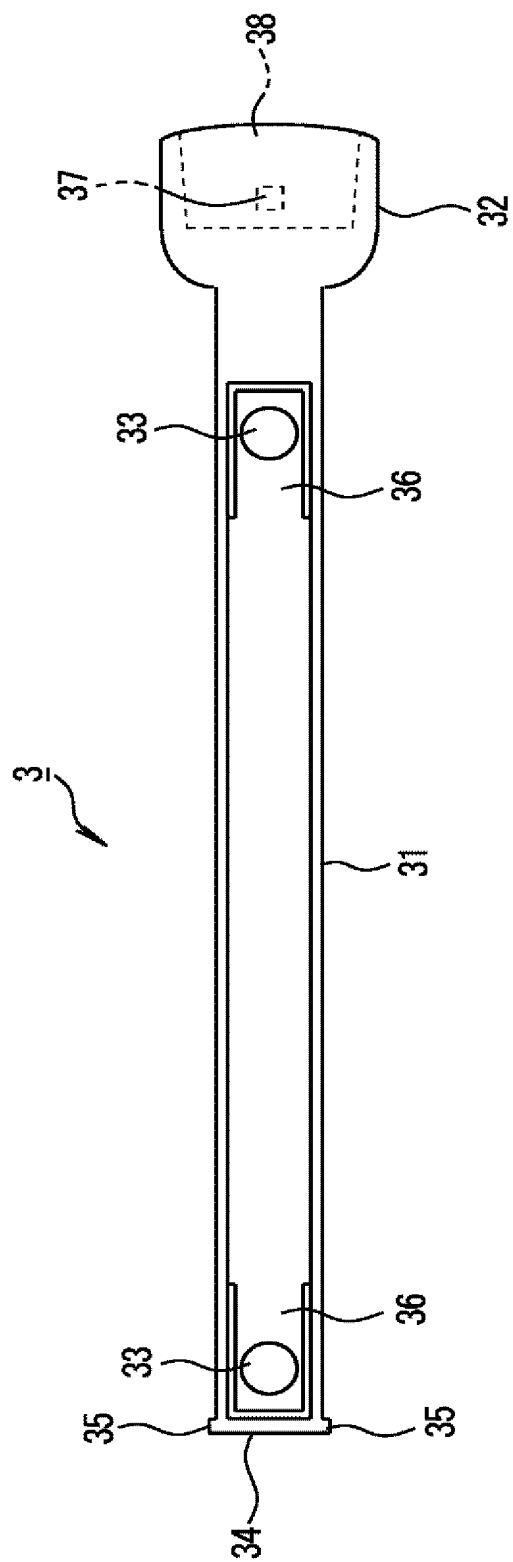
【 図 6 】

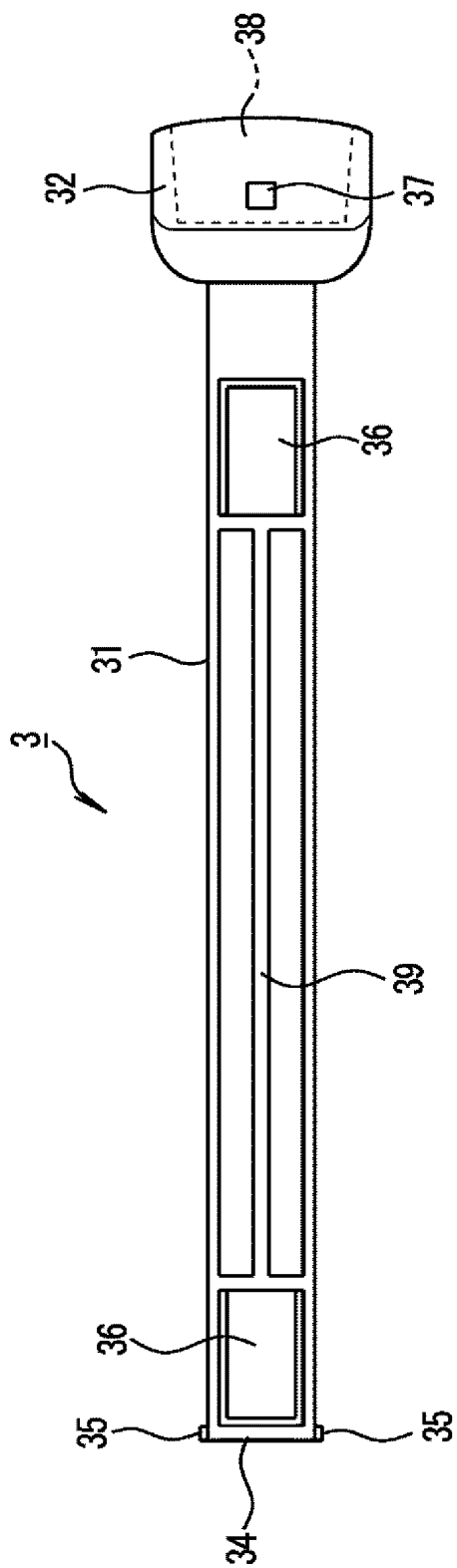


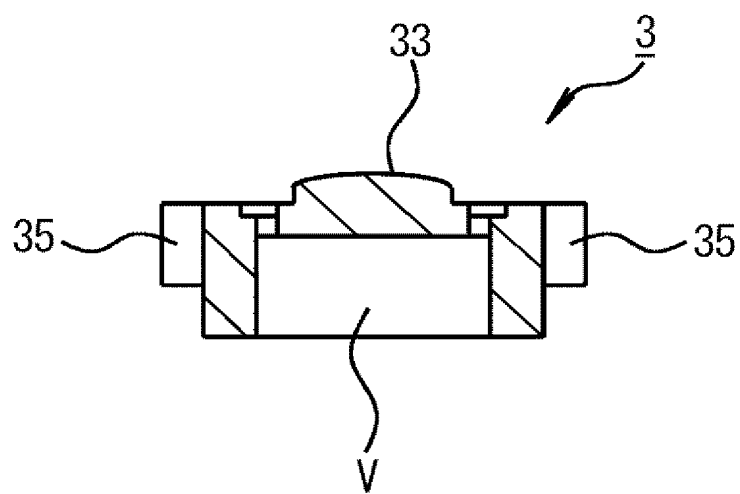
【図 7】

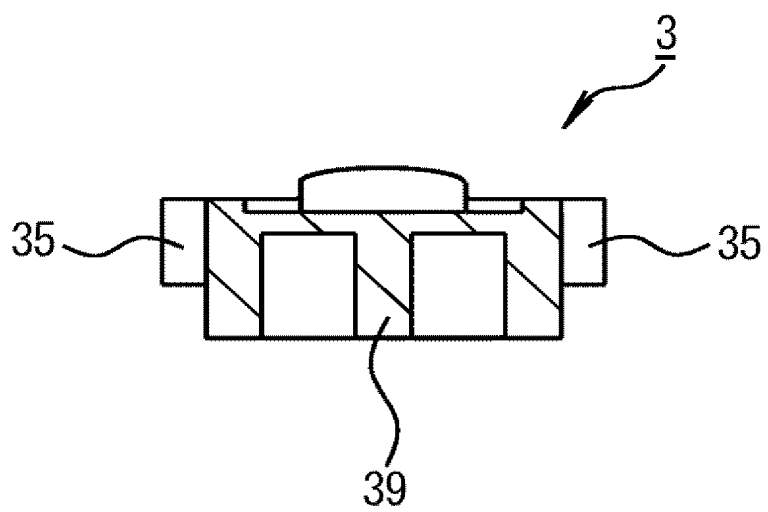


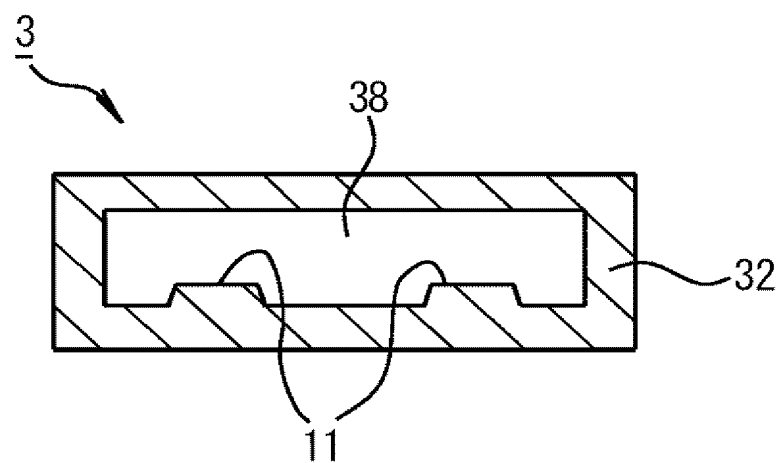


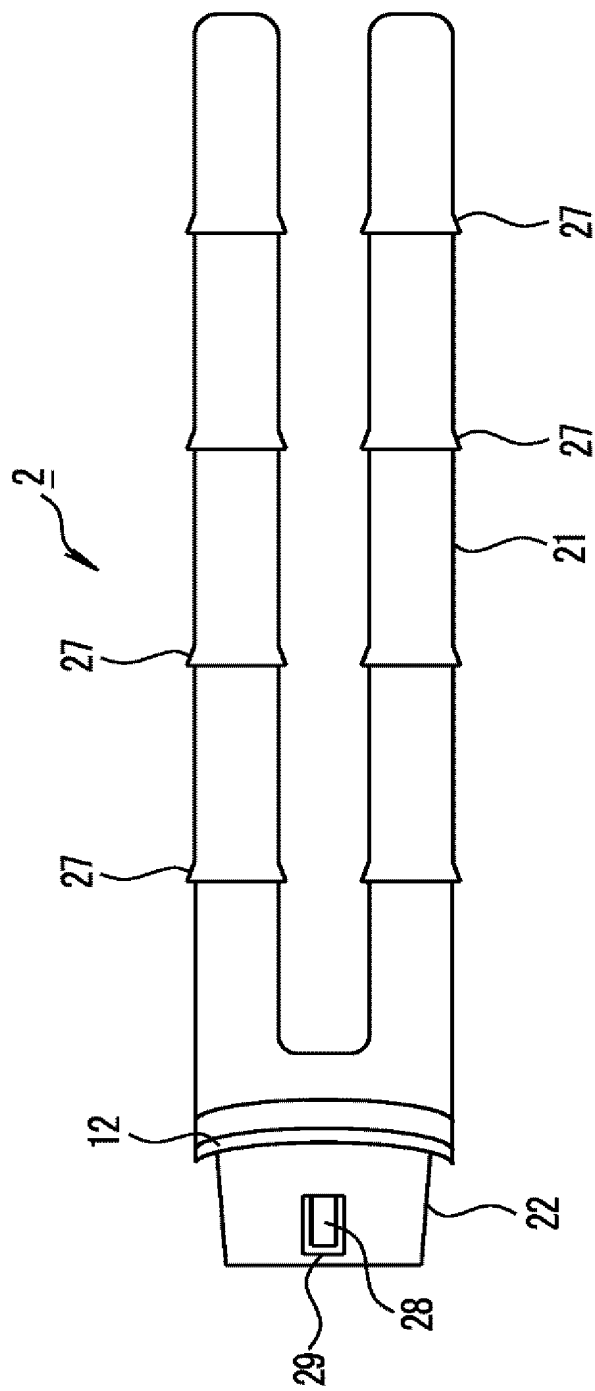


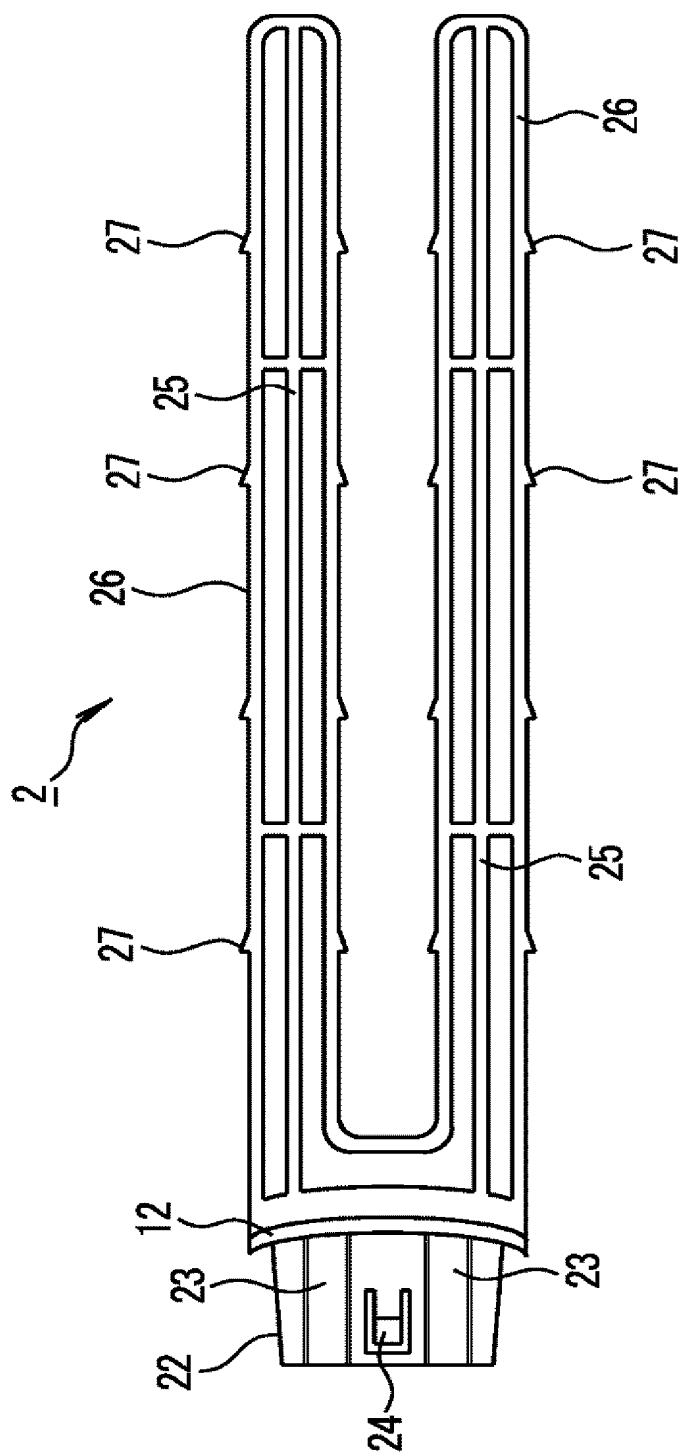


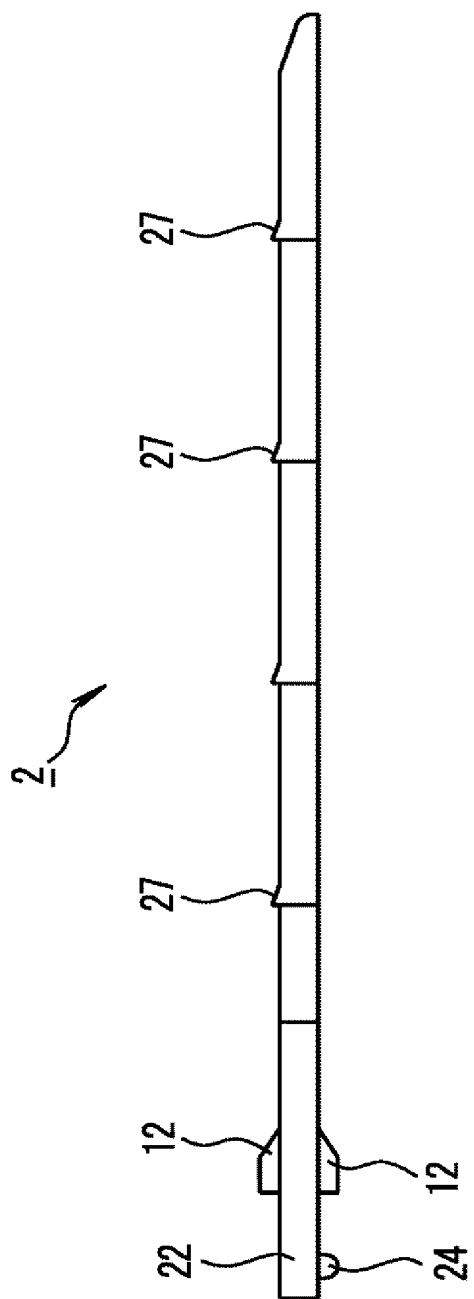


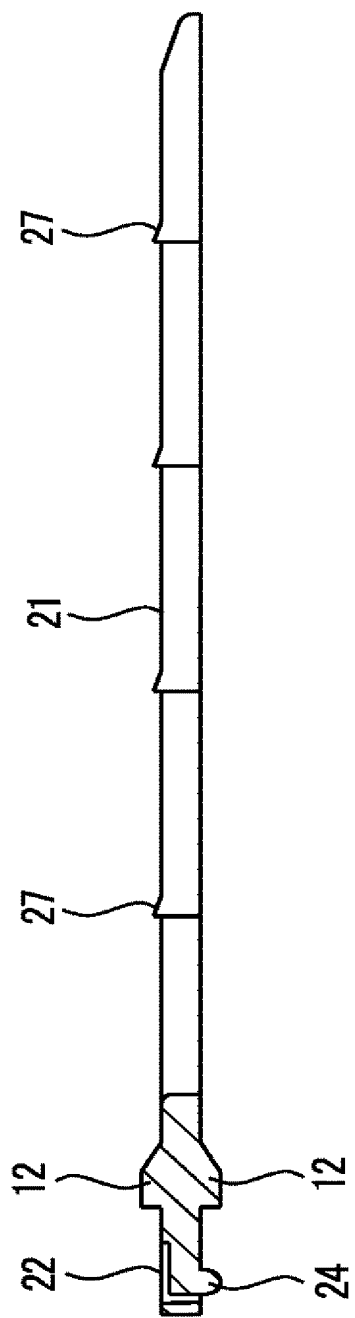


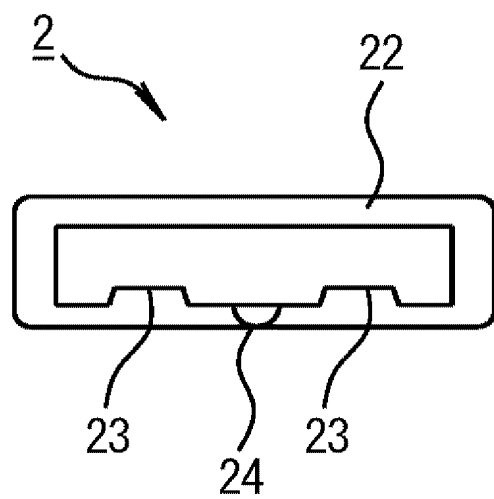


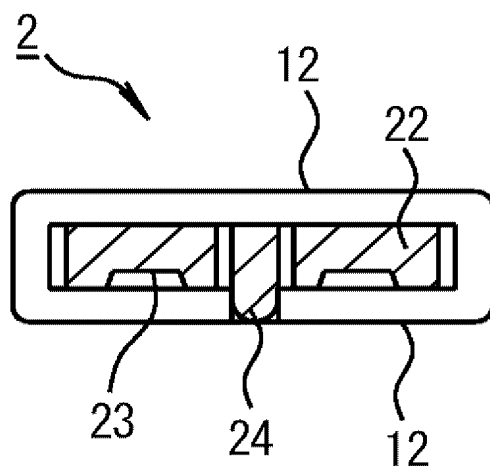


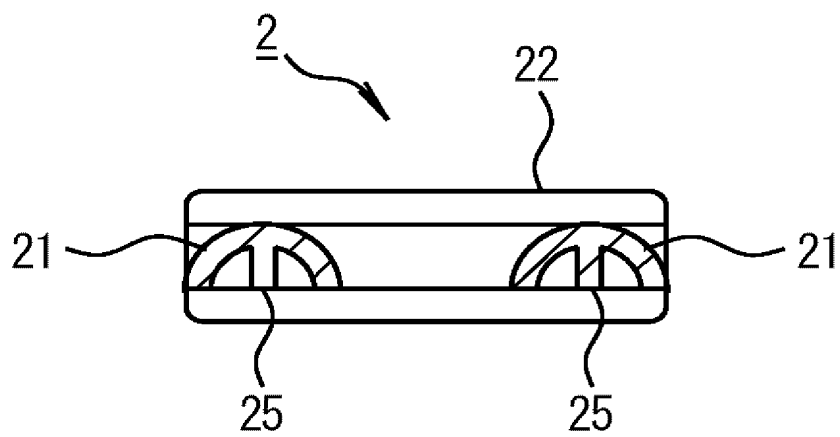


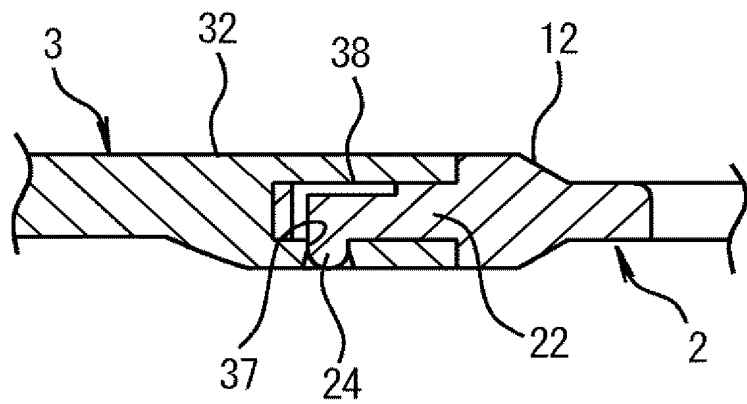


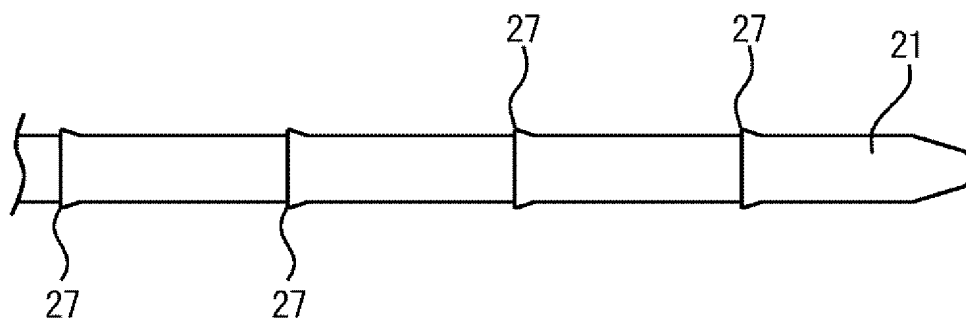


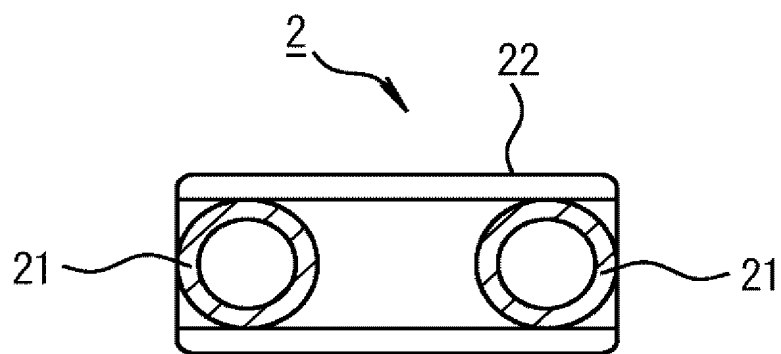


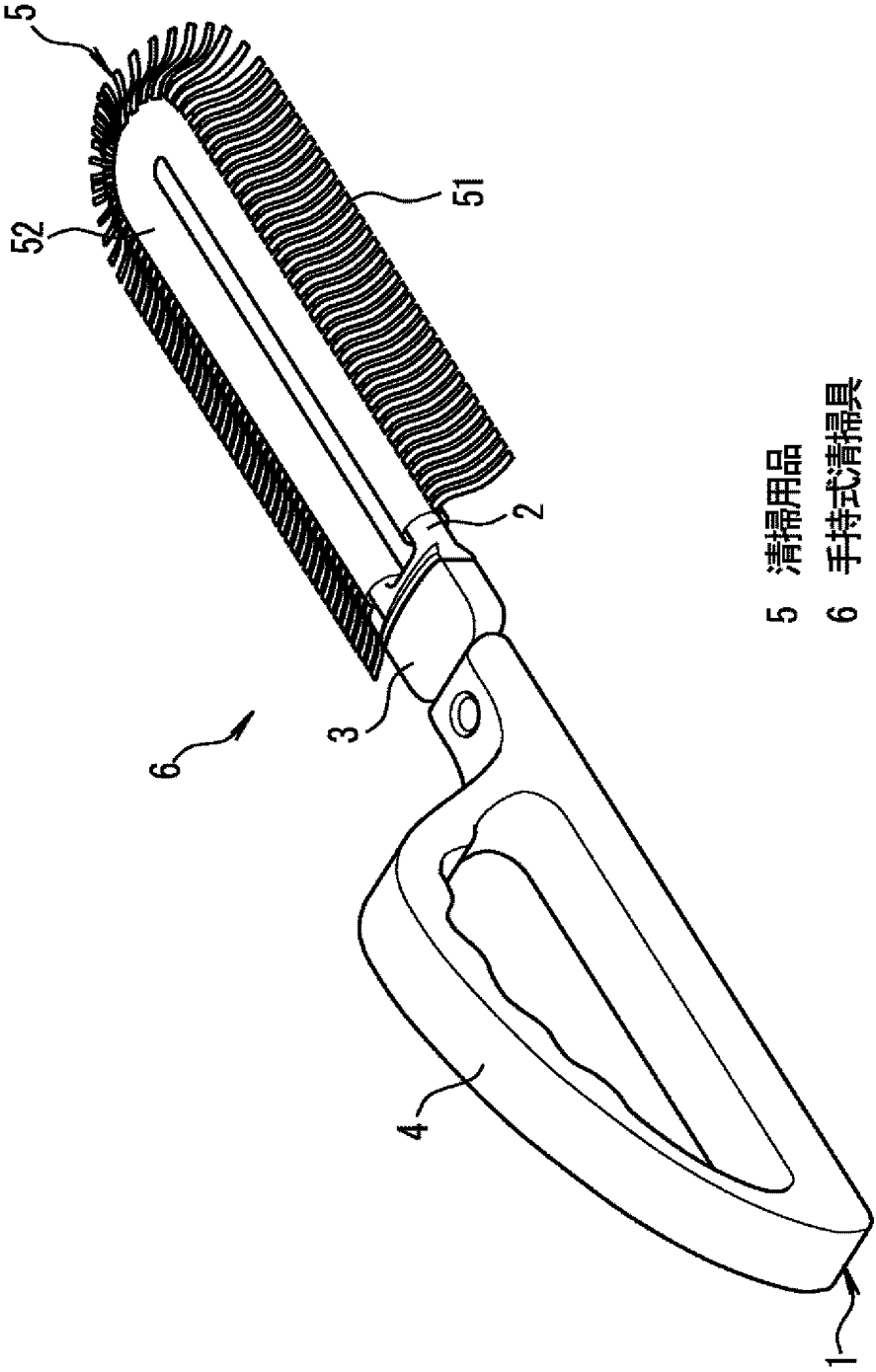






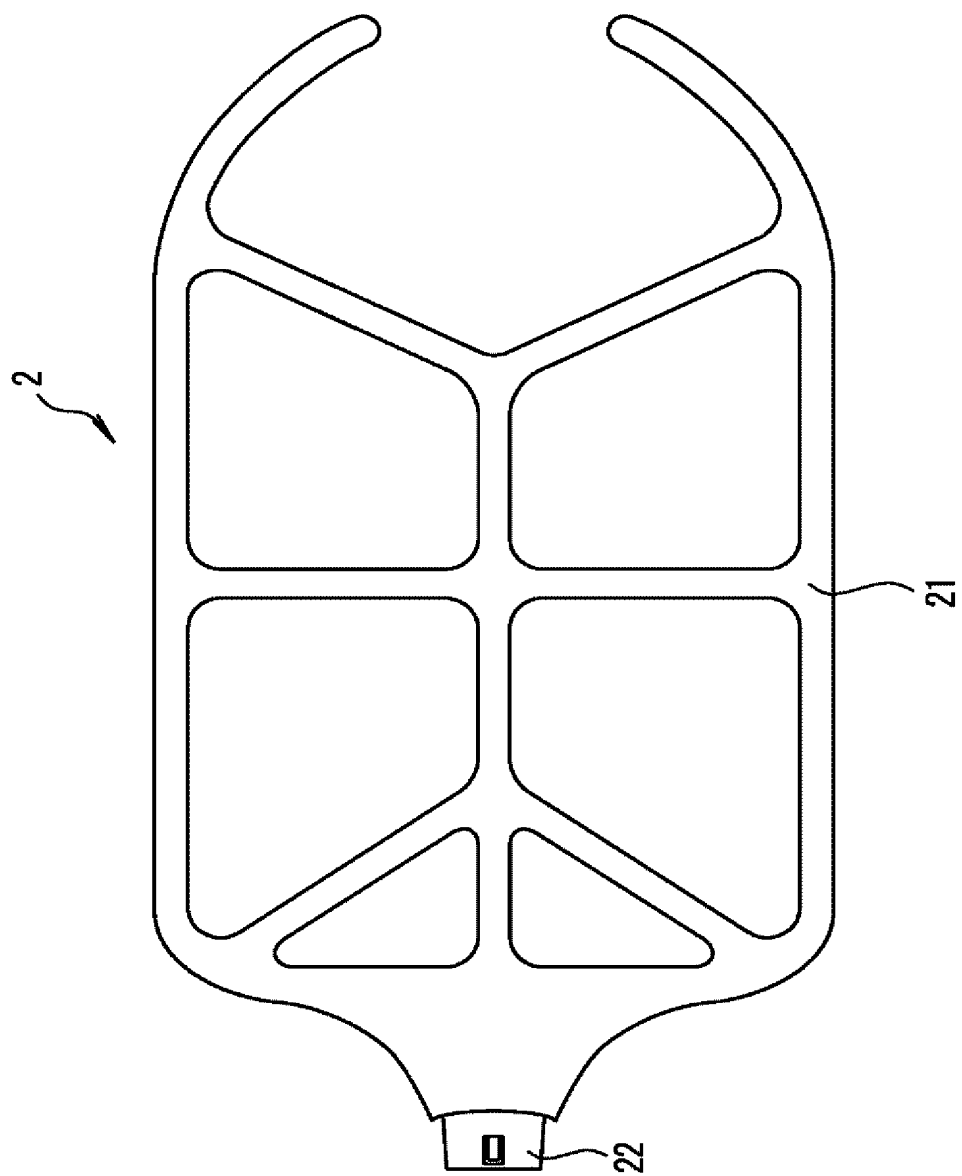


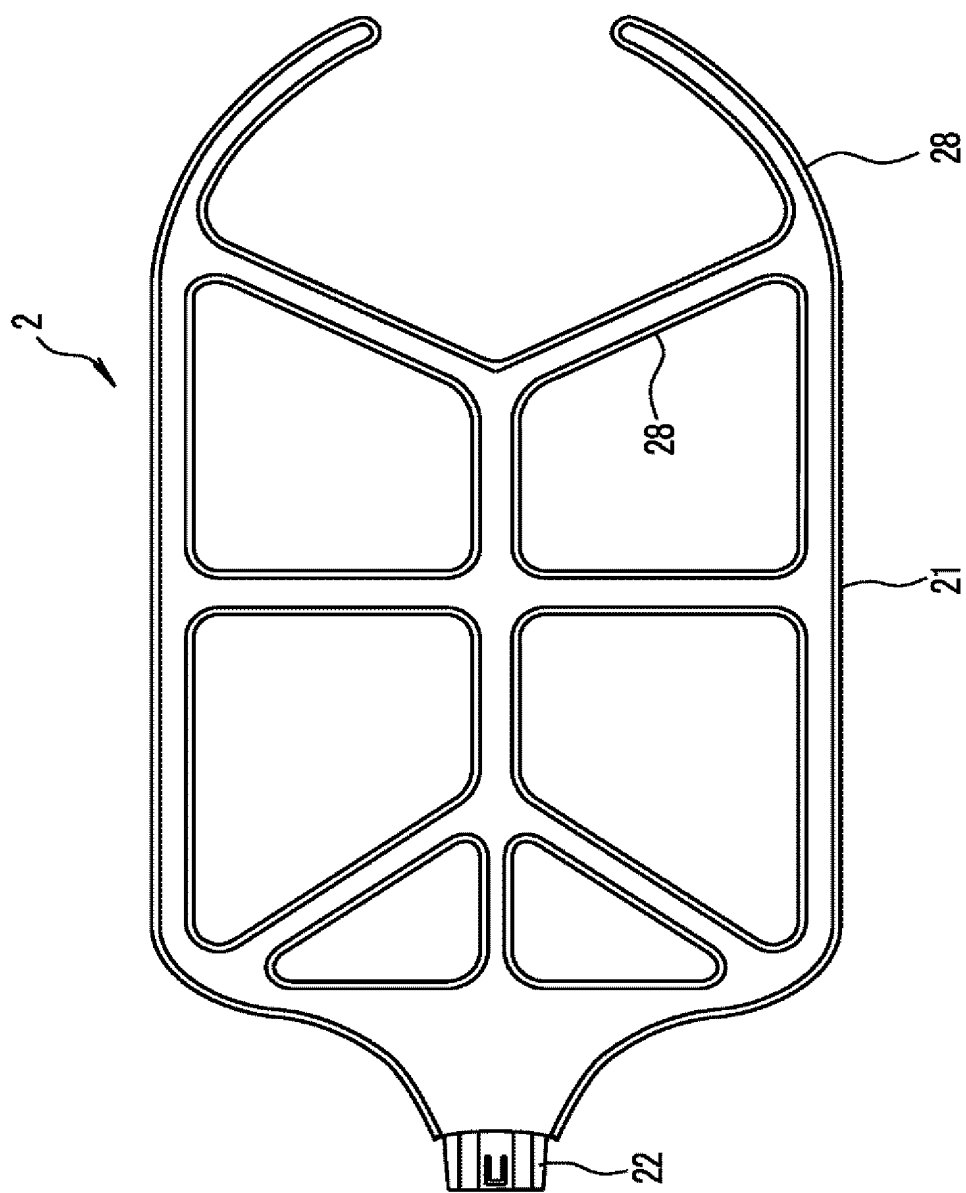


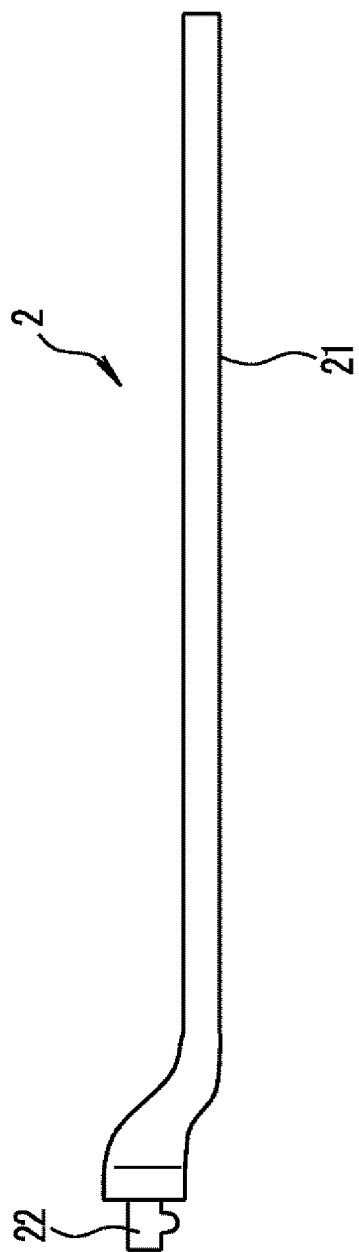


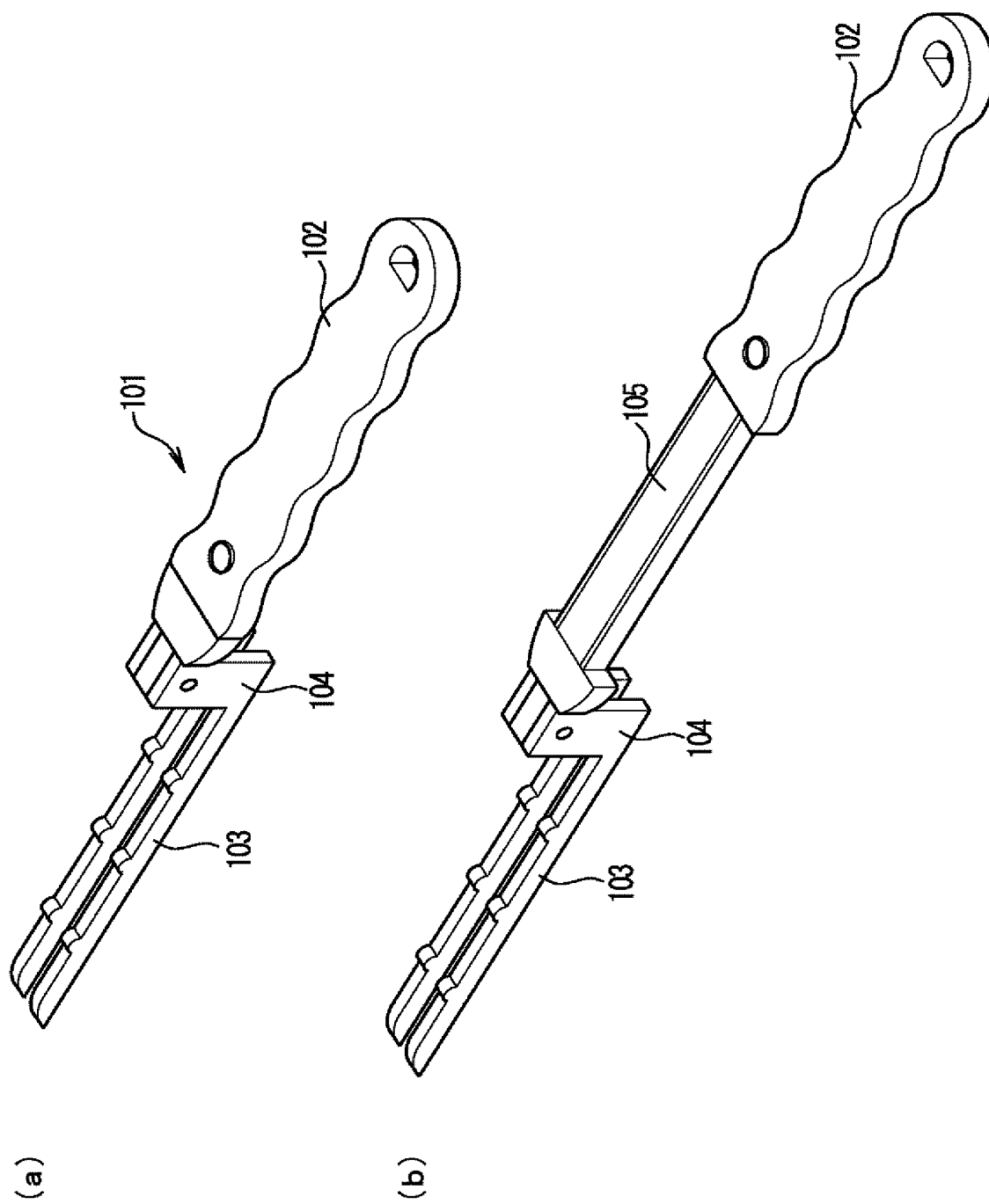
5 清扫用品

6 手持式清扫具









【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 狭い隙間を清掃する際に奥の方まで届き十分な清掃能力を発揮できる手持式清掃具用保持部材を提供する。

【解決手段】 清掃用品を保持するための取り付け部材2と、長尺なスライド部材3と、手持ち可能な柄部材4とから成り、前記取り付け部2は清掃用品を取り付けるための保持部21を備えスライド部材3の前方側に取り付けられ、前記柄部4は内部が中空状に形成され前記スライド部を収容可能な鞘部41と該鞘部41よりも高い位置に接続されている把持部42とを備え、スライド部材を取り付け部材に対し水平方向前後に高さが突出せずに全長が水平方向前後に伸縮するようにに形成して手持式清掃具用保持部材1を構成した。

【選択図】 図1

出願人履歴

3 9 5 0 0 7 0 6 0

20030318

住所変更

東京都港区高輪 4－2 0－1 0 高輪井門 2 0 2

山田 千代恵

3 9 5 0 0 7 0 6 0

20050228

住所変更

東京都品川区東五反田 1－2－1 5 ティアラ島津山 4 0 3 号

山田 千代恵